

第2章

地域や社会とのつながりと幸福実感

第1節 地域活動への参加状況

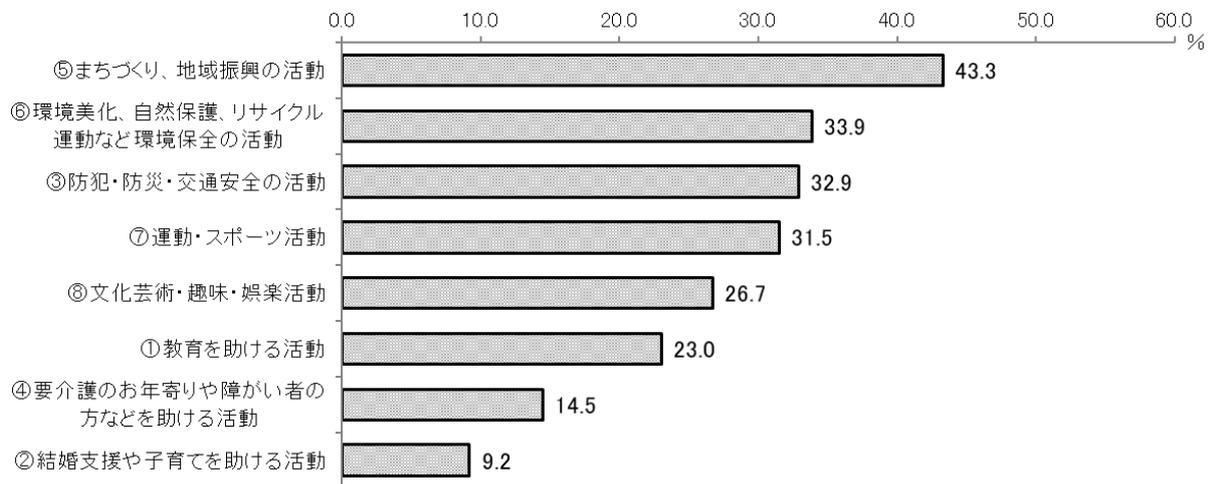
1 地域活動への参加状況

地域活動への参加状況と意欲をみると「ふだん参加している」と「参加した経験がある」を合計した『参加経験』の割合は「まちづくり、地域振興の活動」が43.3%で最も高く、「結婚支援や子育てを助ける活動」は9.2%で最も低くなっています(図表 2-1-1)。

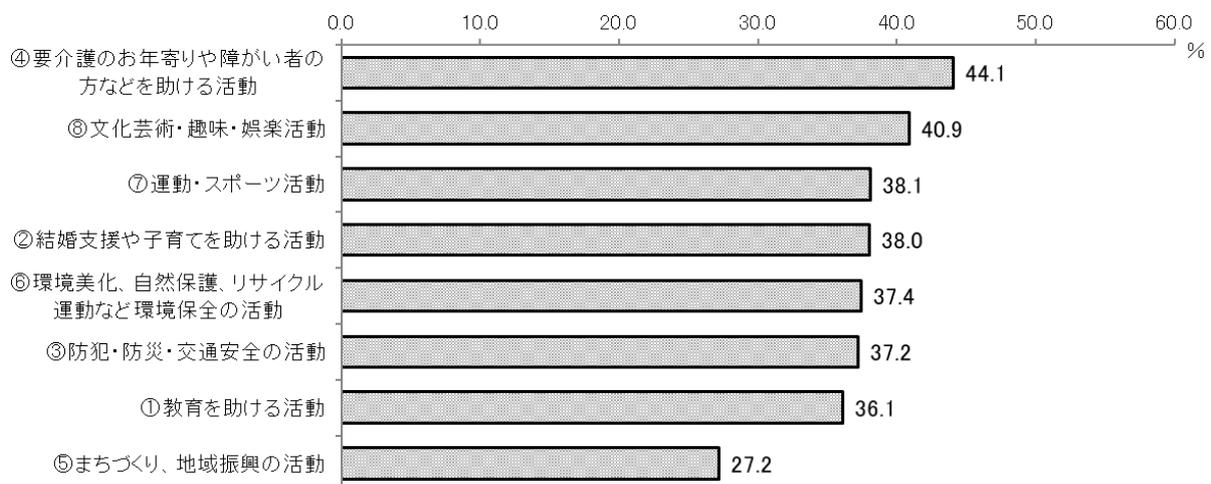
「参加したことはないが、機会があれば参加したい」(『未経験(意欲あり)』)の割合は、「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」が44.1%で最も高くなっています(図表 2-1-2)。

「参加したことはなく、参加したいとも思わない」(『未経験(意欲なし)』)の割合は、「結婚支援や子育てを助ける活動」が47.0%で最も高くなっています(図表 2-1-3)。

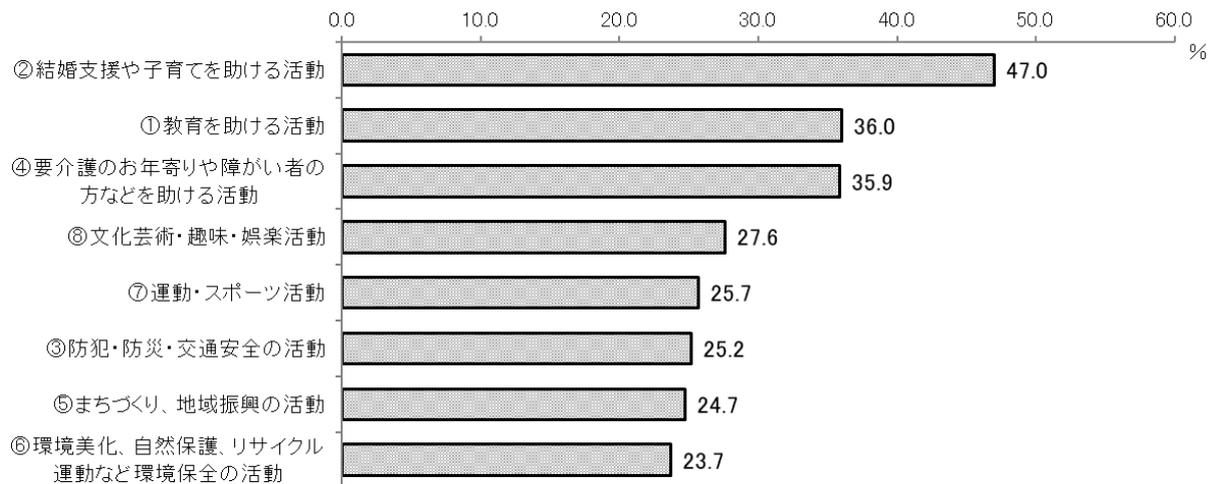
図表 2-1-1 地域活動への『参加経験』割合(項目別・割合順)



図表 2-1-2 地域活動への『未経験(意欲あり)』割合(項目別・割合順)



図表 2-1-3 地域活動への『未経験(意欲なし)』割合(項目別・割合順)



2 属性別の特徴

(1) 『参加経験』者の特徴

各活動別に見ると、男性、70歳代以上、自営・自由業、有配偶、一世代世帯では、多くの活動で『参加経験』が高くなっています(図表 2-1-4)。

性別に見ると、男性と女性では活動項目が異なる傾向にあり、世帯収入別では、300万円以上の所得層が高くなっています。

また、「結婚支援や子育てを助ける活動」では30歳代、40歳代の割合が高く、「文化芸術・趣味・娯楽活動」では、女性や専業主婦・主夫、無職、離別・死別の割合が高いなど、他の項目とは異なる特徴となっています。

図表 2-1-4 『参加経験』の割合が高い属性項目

地域活動	地域	性別	年齢	主な職業	配偶関係	世帯類型	世帯収入
教育を助ける活動	—	男性	—	自営・自由業	有配偶	三世代	400～500万円 600～800万円 1000万円以上
結婚支援や子育てを助ける活動	—	—	30歳代 40歳代	自営・自由業	—	一世代	400～500万円 1000万円以上
防犯・防災・交通安全の活動	—	男性	60歳代	農林水産業 自営・自由業	有配偶	一世代 三世代	300～400万円 400～500万円
要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動	—	—	70歳代以上	自営・自由業	—	—	—
まちづくり、地域振興の活動	伊賀 東紀州	男性	60歳代	農林水産業 自営・自由業	有配偶	三世代	300～400万円 400～500万円 600～800万円
環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動	伊賀	男性	70歳代以上	農林水産業	有配偶	一世代	300～400万円
運動・スポーツ活動	伊賀	男性	70歳代以上	—	有配偶	一世代	300～400万円 800～1,000万円
文化芸術・趣味・娯楽活動	—	女性	70歳代以上	自営・自由業 専業主婦・主夫 無職	離別・死別	一世代	300～400万円 400～500万円

(備考) 『参加経験』の割合が県全体より高い属性項目で、統計的に有意な差(危険率5%未満)のものを記載しています。

(2) 『未経験（意欲あり）』の特徴

多くの項目で、30歳代、50～60歳代の層、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員、二世帯世帯、世帯収入では500万円以上600万円未満、800万円以上の所得層が高くなっています(図表 2-1-5)。

図表 2-1-5 『未経験（意欲あり）』の割合が高い属性項目

地域活動	地域	性別	年齢	主な職業	配偶関係	世帯類型	世帯収入
教育を助ける活動	—	—	30歳代 50歳代 60歳代	正規職員 パート・バイト・派遣	有配偶	—	500～600万円 800～1000万円 1000万円以上
結婚支援や子育てを助ける活動	—	女性	30歳代 40歳代 50歳代	自営・自由業 正規職員 パート・バイト・派遣	有配偶	二世帯 三世帯	400～500万円 500～600万円 800～1000万円 1000万円以上
防犯・防災・交通安全の活動	—	—	30歳代 50歳代	正規職員 その他の職業	未婚	—	500～600万円
要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動	—	—	50歳代 60歳代	正規職員 パート・バイト・派遣	有配偶	二世帯	800～1000万円
まちづくり、地域振興の活動	中南勢	—	30歳代 50歳代	正規職員 パート・バイト・派遣	未婚	—	1000万円以上
環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動	—	—	30歳代 40歳代 50歳代	正規職員 パート・バイト・派遣 その他の職業	未婚	二世帯	800～1000万円
運動・スポーツ活動	—	—	30歳代 50歳代 60歳代	正規職員 パート・バイト・派遣 その他の職業	—	二世帯	500～600万円 1,000万円以上
文化芸術・趣味・娯楽活動	—	男性	30歳代 40歳代 50歳代 60歳代	正規職員 パート・バイト・派遣 その他の職業	未婚 有配偶	二世帯	500～600万円 600～800万円 800～1,000万円 1,000万円以上

(備考) 『未経験（意欲あり）』の割合が県全体より高い属性項目で、統計的に有意な差（危険率5%未満）のものを記載しています。

(3) 『未経験（意欲なし）』の特徴

多くの項目で、女性、20歳代の若年層、無職、未婚、離別・死別、単身世帯、世帯収入 200 万円未満の割合が高くなっています(図表 2-1-6)。

図表 2-1-6 『未経験（意欲なし）』の割合が高い属性項目

地域活動	地域	性別	年齢	主な職業	配偶関係	世帯類型	世帯収入
教育を助ける活動	—	—	—	無職	未婚 離別・死別	単身世帯	100万円未満 100～200万円
結婚支援や子育てを助ける活動	—	男性	60歳代	無職	未婚	—	100万円未満 100～200万円 200～300万円
防犯・防災・交通安全の活動	中南勢	女性	20歳代	専業主婦・主夫	未婚 離別・死別	単身世帯	100万円未満 100～200万円
要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動	—	—	20歳代 30歳代	—	—	—	—
まちづくり、地域振興の活動	中南勢	女性	20歳代 40歳代	無職	未婚	—	100万円未満 100～200万円
環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動	—	女性	20歳代 40歳代	専業主婦・主夫	未婚 離別・死別	単身世帯	100万円未満 100～200万円
運動・スポーツ活動	—	女性	20歳代	無職	未婚 離別・死別	単身世帯	100万円未満 100～200万円
文化芸術・趣味・娯楽活動	—	—	—	無職	—	—	100万円未満 100～200万円

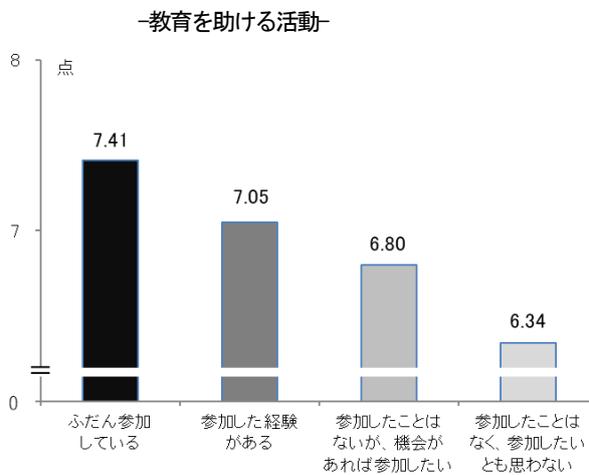
(備考) 『未経験（意欲なし）』の割合が県全体より高い属性項目で、統計的に有意な差（危険率5%未満）のものを記載しています。

第2節 地域活動への参加状況と幸福感の関係

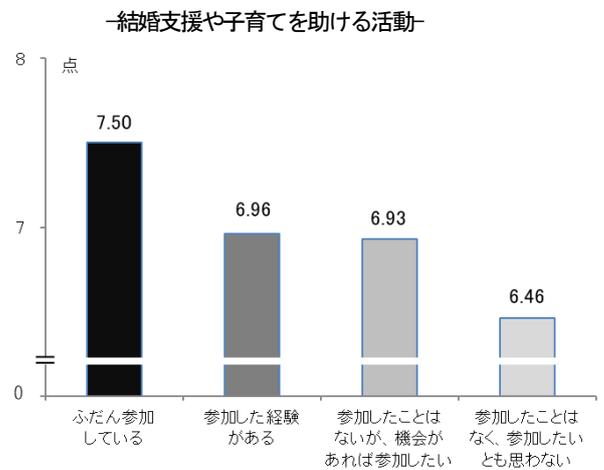
地域活動への参加状況・意欲と幸福感の関係を見ると、全ての活動で「ふだん参加している」方の幸福感の平均値が最も高く、「参加したくない」と回答した方の幸福感の平均値が最も低くなっており、全体的に地域活動への参加度合や意欲が高まるにつれ、幸福感の平均値も高まる傾向があります(図表 2-2-1～図表 2-2-8)。

なお、「ふだん参加している」と「参加したくない」の平均値の差は、「運動・スポーツ活動」が最も大きく(1.09点)なっています(図表 2-2-7)。

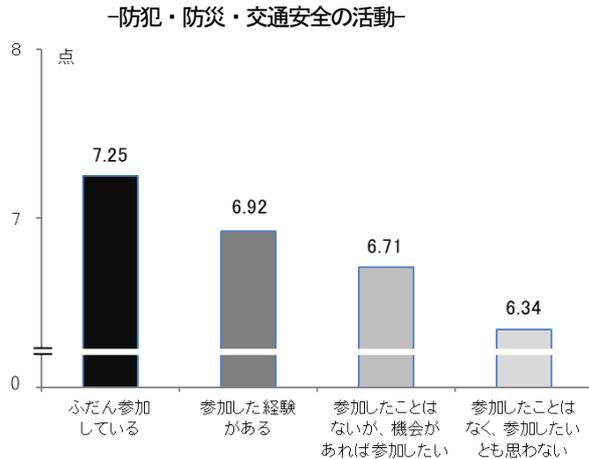
図表 2-2-1 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)



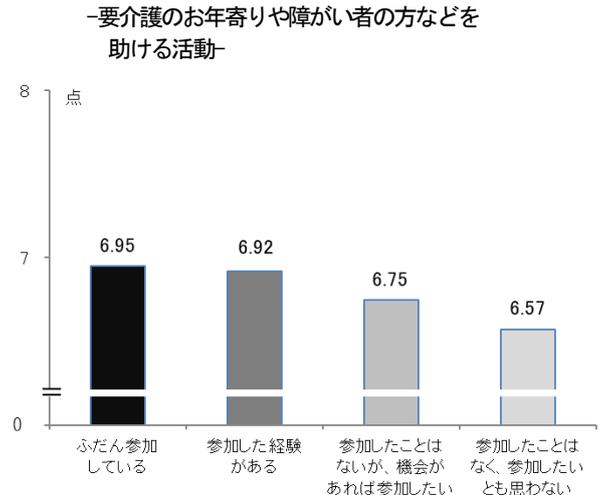
図表 2-2-2 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)



図表 2-2-3 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

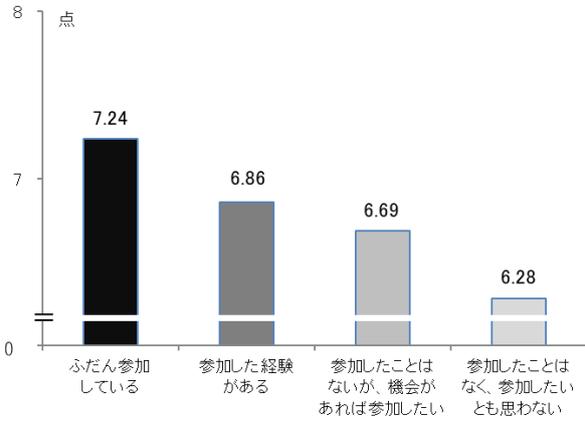


図表 2-2-4 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)



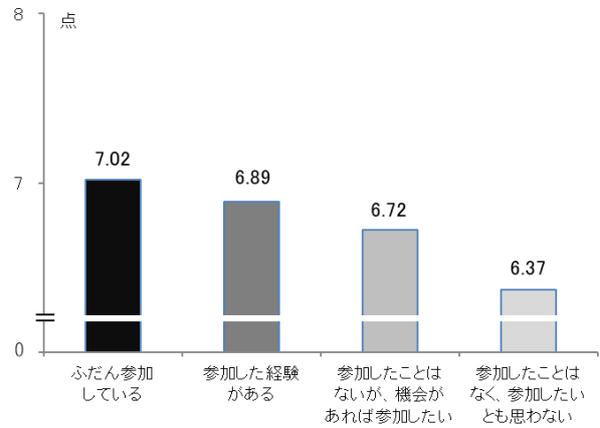
図表 2-2-5 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

—まちづくり、地域振興の活動—



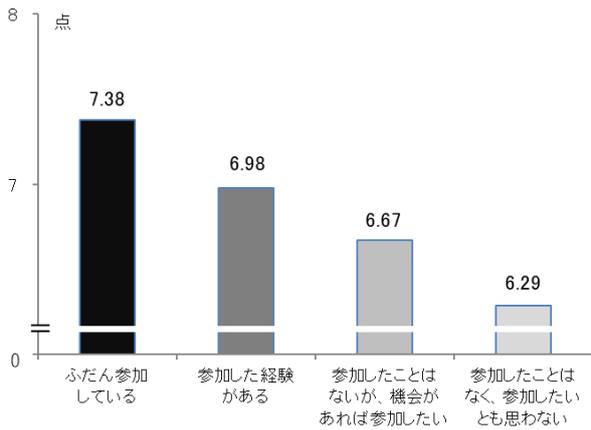
図表 2-2-6 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

—環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動—



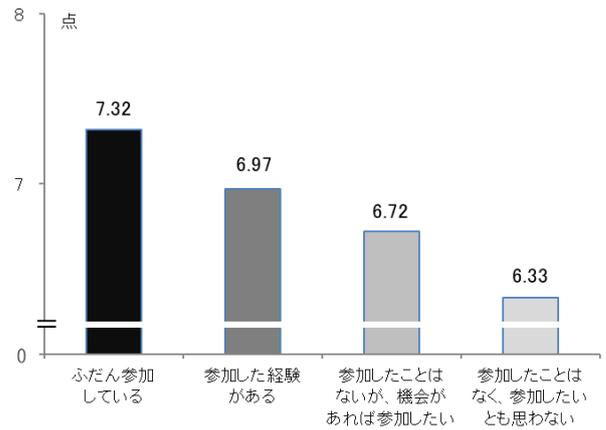
図表 2-2-7 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

—運動・スポーツ活動—



図表 2-2-8 幸福感の平均値(参加状況・意欲別)

—文化芸術・趣味・娯楽活動—



第3節 地域活動への参加状況と幸福実感指標との関係

15の幸福実感指標の『実感している層』と『実感していない層』(※1)それぞれが、関連があると思われる地域活動にどの程度参加しているか、参加意欲があるのかをクロス集計したところ、すべての項目で『実感している層』の『参加経験』が『実感していない層』よりも高くなっています(図表 2-3-1～図表 2-3-9)。

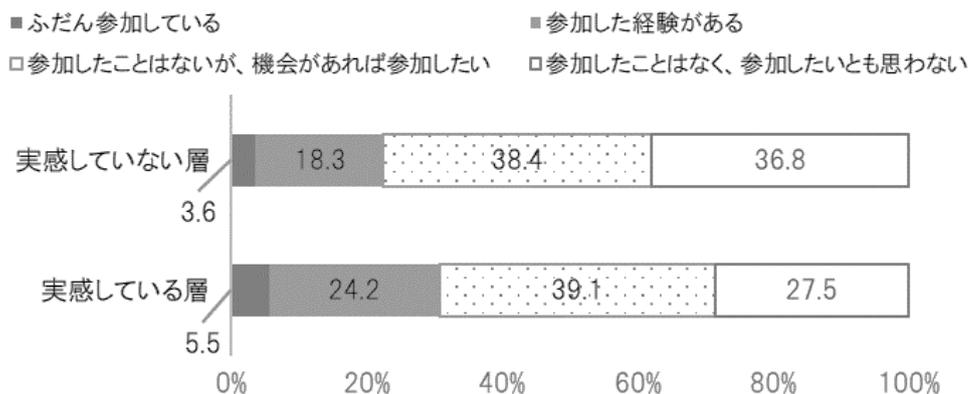
また、『参加意欲あり』(※2)についても、「身近な自然や環境を守る取組が広がっている」と「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」以外のすべてにおいて『実感している層』が『実感していない層』よりも高くなっています(図表 2-3-8)。

※1 『実感している層』『実感していない層』…政策分野ごとの地域や社会の状況について、実感している人、実感していない人

※2 『参加意欲あり』…『参加経験』に『未経験(意欲あり)』を加えた割合

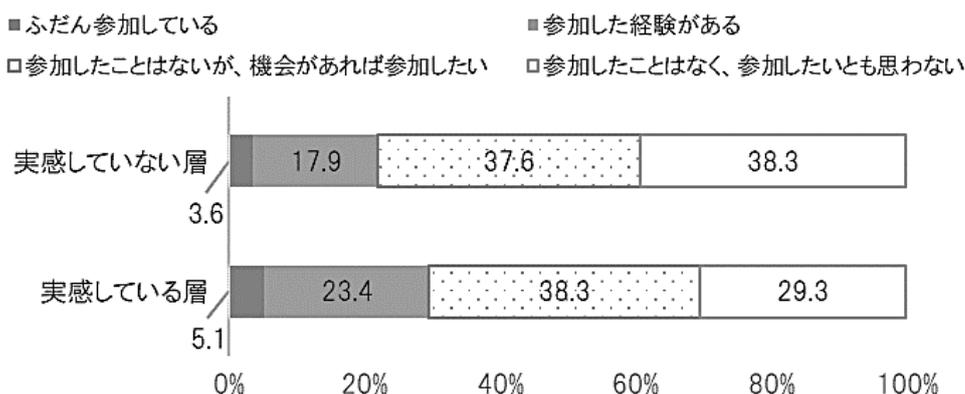
(1) 「子どものためになる教育が行われている」と「教育を助ける活動」

図表 2-3-1 幸福実感指標「子どものためになる教育が行われている」の実感別の「教育を助ける活動」への参加割合



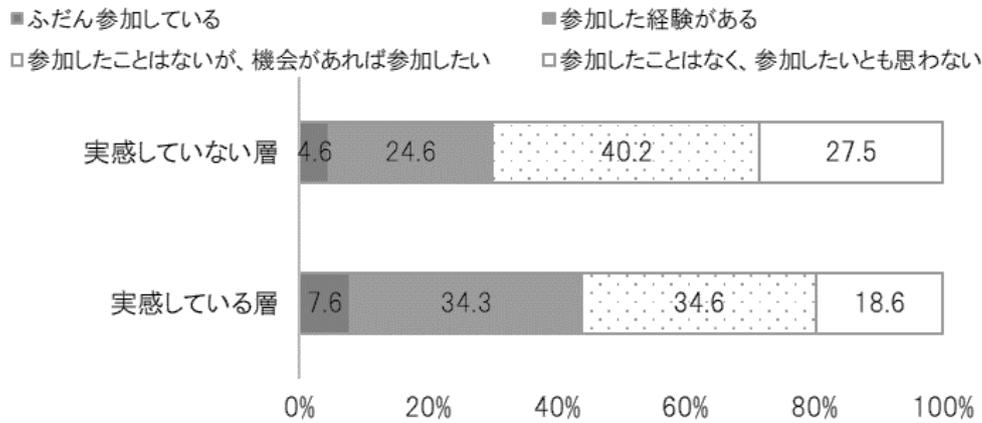
(2) 「結婚・妊娠・子育てなどの希望がない、子どもが豊かに育っている」と「結婚支援や子育てを助ける活動」

図表 2-3-2 幸福実感指標「結婚・妊娠・子育てなどの希望がない、子どもが豊かに育っている」の実感別の「結婚支援や子育てを助ける活動」への参加割合



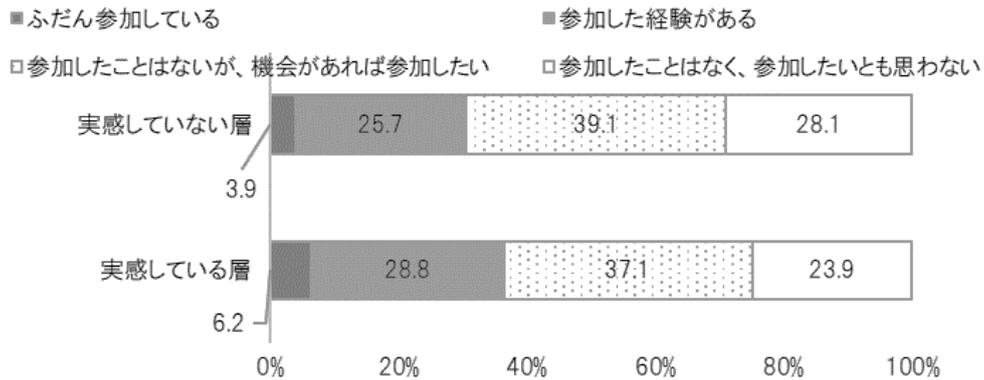
(3) 「災害等の危機への備えが進んでいる」と「防犯・防災・交通安全の活動」

図表 2-3-3 幸福実感指標「災害等の危機への備えが進んでいる」の実感別の「防犯・防災・交通安全の活動」への参加割合



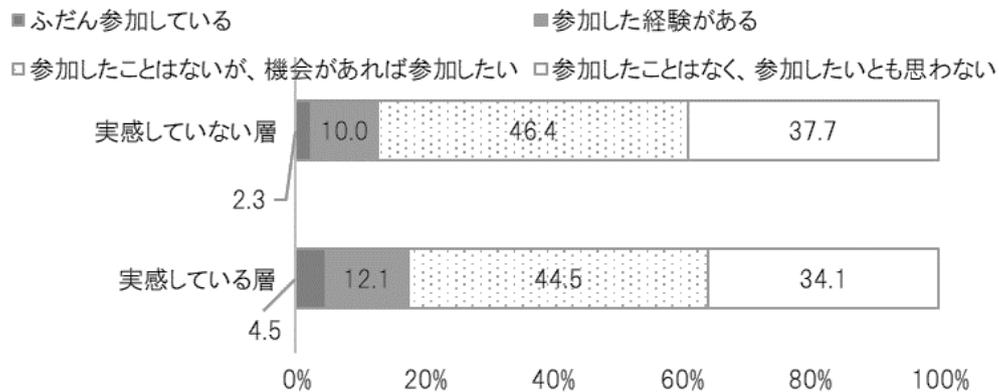
(4) 「犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」と「防犯・防災・交通安全の活動」

図表 2-3-4 幸福実感指標「犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」の実感別の「防犯・防災・交通安全の活動」への参加割合



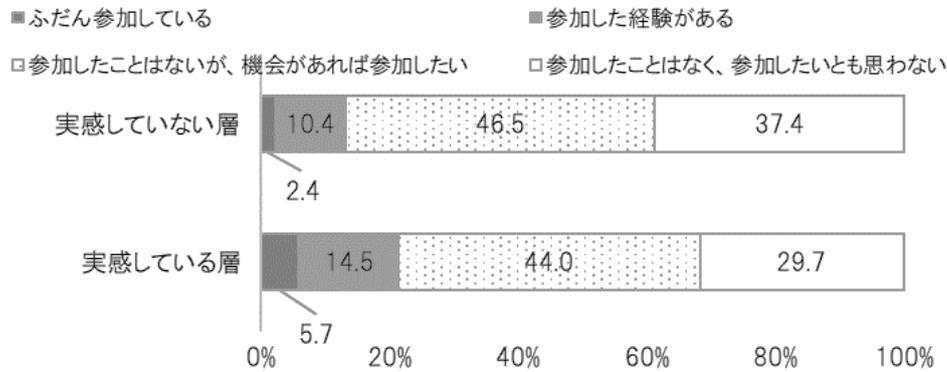
(5) 「必要な医療サービスを利用できている」と「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」

図表 2-3-5 幸福実感指標「必要な医療サービスを利用できている」の実感別の「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」への参加割合



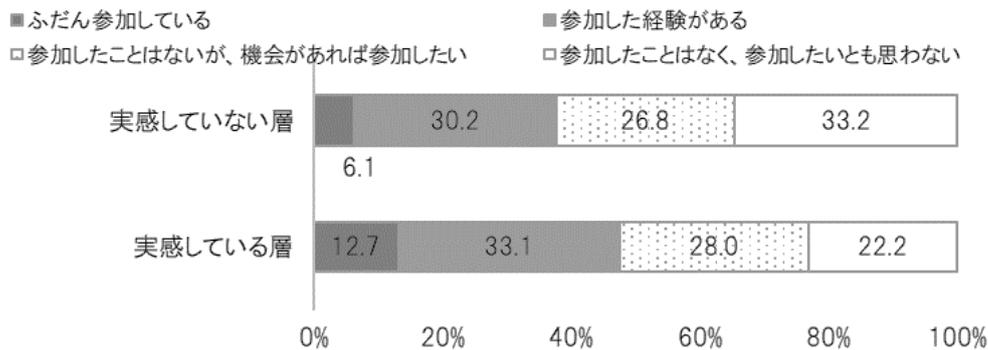
(6) 「必要な福祉サービスを利用できている」と「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」

図表 2-3-6 幸福実感指標「必要な福祉サービスを利用できている」の実感別の「要介護のお年寄りや障がい者の方などを助ける活動」への参加割合



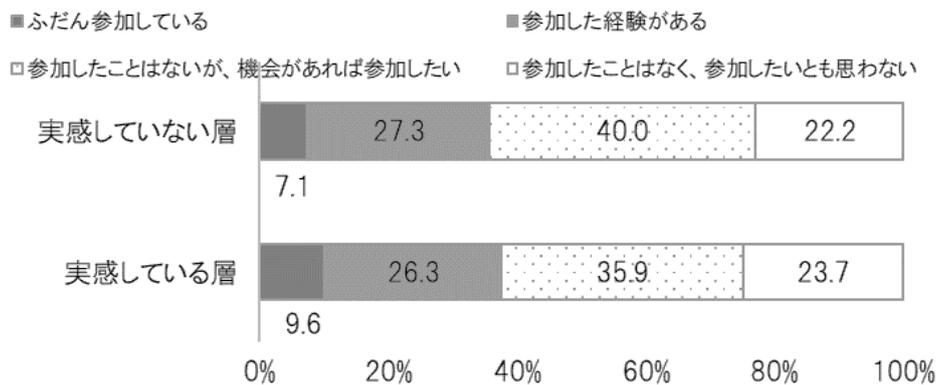
(7) 「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」と「まちづくり、地域振興の活動」

図表 2-3-7 幸福実感指標「自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」の実感別の「まちづくり、地域振興の活動」への参加割合



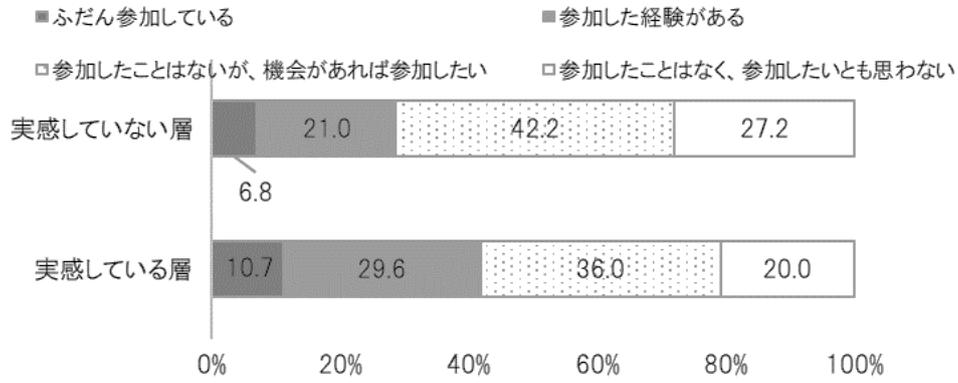
(8) 「身近な自然や環境が守られている」と「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」

図表 2-3-8 幸福実感指標「身近な自然や環境が守られている」の実感別の「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」への参加割合



(9) 「スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っている」と「運動・スポーツ活動」

図表 2-3-9 幸福実感指標「スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っている」の実感別の「運動・スポーツ活動」への参加割合



第4節 人とのつながりと幸福感

安心感のある暮らしを送るために必要な「人とのつながり」はどのようなものかという質問に対する選択と、幸福感のクロス集計を行ったところ、幸福感が高い人は、人とのつながりの選択肢として、近所づきあいや町内会等のつながり、学校や趣味・サークルなどのつながりを選んだ割合が、全体より高くなっていること、逆に、幸福感が低い人は、それらのつながりを選んだ割合が全体より低くなっていることがわかりました。

図表 2-4-1 人とのつながりと幸福感

【検定】
比率(母集団内)検定
両側

有意水準~1% ▲▼
有意水準~5% △▽

(%)

	合計	職場におけるつながり	学校におけるつながり(同窓会も含む)	趣味のサークルなどにおけるつながり	近所づきあい	町内会・自治会などの地縁組織におけるつながり	NPO・ボランティア団体等におけるつながり	フェイスブック・ラインなどのソーシャルメディアにおけるつながり	その他	わからない	不明	
												変化率
全体	5,044	26.3	8.9	19.7	61.5	35.8	2.6	1.5	4.2	4.5	7.4	
現在の幸福感	10点	327	25.1	8.3	18.0	60.6	35.2	3.4	2.1	4.6	3.7	10.1
	9点	377	22.5	△ 12.2	22.5	△ 67.6	36.9	2.1	0.5	▲ 6.9	▽ 2.4	5.6
	8点	1,114	28.3	9.8	△ 22.4	61.1	△ 38.8	2.6	1.2	4.4	▽ 3.1	▽ 5.6
	7点	1,101	27.6	10.0	20.7	61.3	38.4	2.8	2.0	3.6	▽ 2.9	6.4
	6点	597	29.6	8.4	21.4	64.3	35.0	2.3	1.2	3.4	4.7	6.0
	5点	848	23.6	▼ 6.1	▼ 14.7	62.4	34.9	2.4	1.5	3.1	▲ 6.5	▲ 9.9
	4点	223	▽ 19.7	8.5	20.6	65.5	31.4	1.8	1.8	5.4	7.2	6.3
	3点	194	22.2	9.8	14.9	▼ 46.4	▼ 25.3	3.1	2.6	6.2	▲ 9.8	▲ 13.4
	2点	42	26.2	7.1	11.9	54.8	33.3	▲ 9.5	2.4	2.4	9.5	9.5
	1点	38	34.2	5.3	15.8	52.6	▽ 18.4	0.0	2.6	2.6	10.5	10.5
0点	28	14.3	7.1	7.1	▽ 42.9	28.6	▲ 10.7	△ 7.1	7.1	▲ 21.4	7.1	

■地域活動への参加状況等からの政策の示唆

地域活動への参加状況と幸福感の関係を見ると、地域活動への参加度合いや意欲が高まるにつれ、幸福感も高まる傾向がみられました。

また、幸福実感指標について実感している層は、関連する地域活動に参加している割合が、実感していない層よりも高くなっていました。

さらに、幸福感が高い人は、人とのつながりの選択肢として、近所づきあいや町内会等のつながり、学校や趣味・サークルなどのつながりを選んだ割合が、全体より高くなっていること、逆に、幸福感が低い人は、それらのつながりを選んだ割合が全体より低くなっている傾向がありました。

これらのことから、地域活動に参加することと幸福感や、地域等の人とのつながりと幸福感との間に深い関係があることが考えられ、地域活動への参加を促進することが幸福感を高めることにつながる可能性があります。特に、各活動への参加理由の主なもの、「参加するよう要請があったから」、「周囲の人に誘われたから」であったことから（第8回みえ県民意識調査〈集計結果報告書〉）、家族や地域の方から、地域活動への参加を促されることで、地域活動への参加が促進され、幸福感が高められる可能性があると考えられます。

